

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第11週 (3/11-3/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		11週	10週	9週	8週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	3/11-3/17	3/4-3/10	2/25-3/3	2/18-2/24	3/4-3/10
			11週	10週	9週	8週	10週
小 児 科	RSウイルス感染症	○	7 0.39	1 0.06	3 0.17	7 0.39	39 0.30
	咽頭結膜熱	○	7 0.39	1 0.06	1 0.06	2 0.11	22 0.17
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	63 3.50	34 1.89	44 2.44	46 2.56	465 3.52
	感染性胃腸炎		111 6.17	106 5.89	105 5.83	93 5.17	703 5.33
	水痘		12 0.67	9 0.50	16 0.89	10 0.56	61 0.46
	手足口病		1 0.06	1 0.06	2 0.11	0 0.00	3 0.02
	伝染性紅斑	○	26 1.44	17 0.94	12 0.67	18 1.00	90 0.68
	突発性発しん		9 0.50	9 0.50	5 0.28	8 0.44	39 0.30
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00	2 0.02
	流行性耳下腺炎		2 0.11	3 0.17	0 0.00	3 0.17	11 0.08
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		37 1.37	83 2.96	168 6.00	203 7.25	690 3.25
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎		0 0.00	1 0.20	3 0.60	1 0.20	6 0.17
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(12件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子等の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	百日咳	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等	百日咳	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	60歳代	IGRA検査	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子等の検出
A型肝炎	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出
梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	50歳代	病原体遺伝子の検出

・第11週は、結核4件(31)、A型肝炎1件(2)、梅毒1件(8)、百日咳3件(26)、風しん3件(13)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

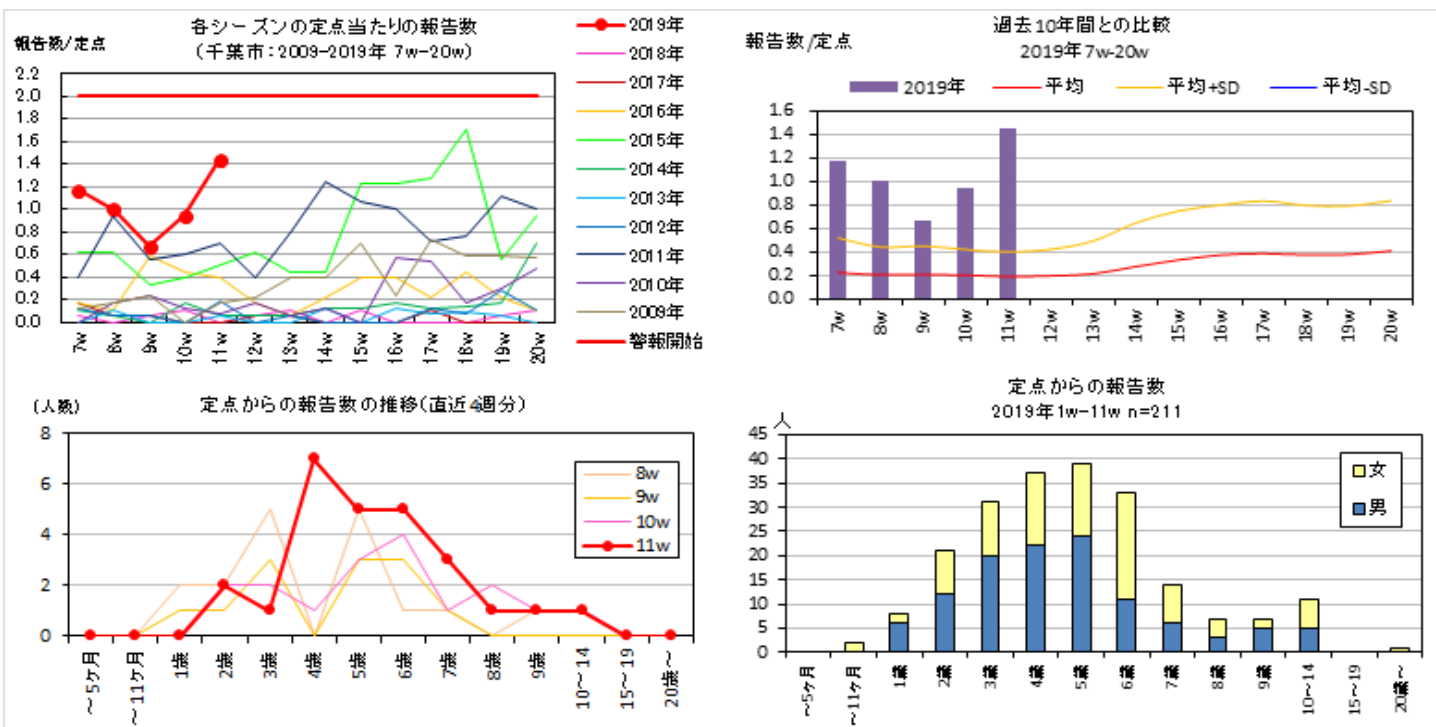
定点当たり報告数 第11週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。
 ＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。
 ＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.50となった。過去10年の同時期と比べると多い。
 ＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.44となった。過去10年の同時期と比べると最多のまま。

トピック

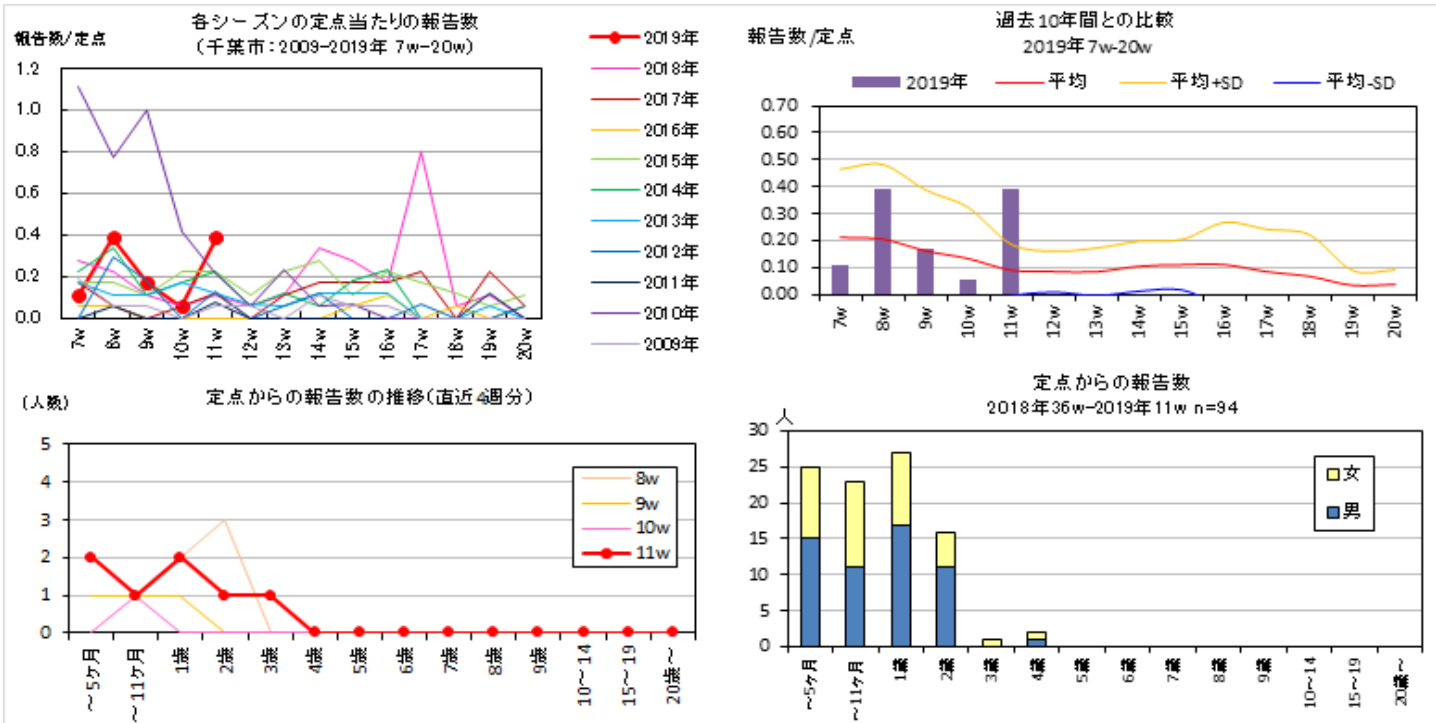
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、山形県、石川県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となりつつも高い水準で推移していましたが、第11週は前週より更に増加し1.44となりました。過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第11週までの累積報告数は211件で、性別では男性が54.0%(114名)、女性が46.0%(97名)となっており、年齢階級別では5歳(18.5%:39名)、4歳(17.5%:37名)、6歳(15.6%:33名)の順で多くなっています。



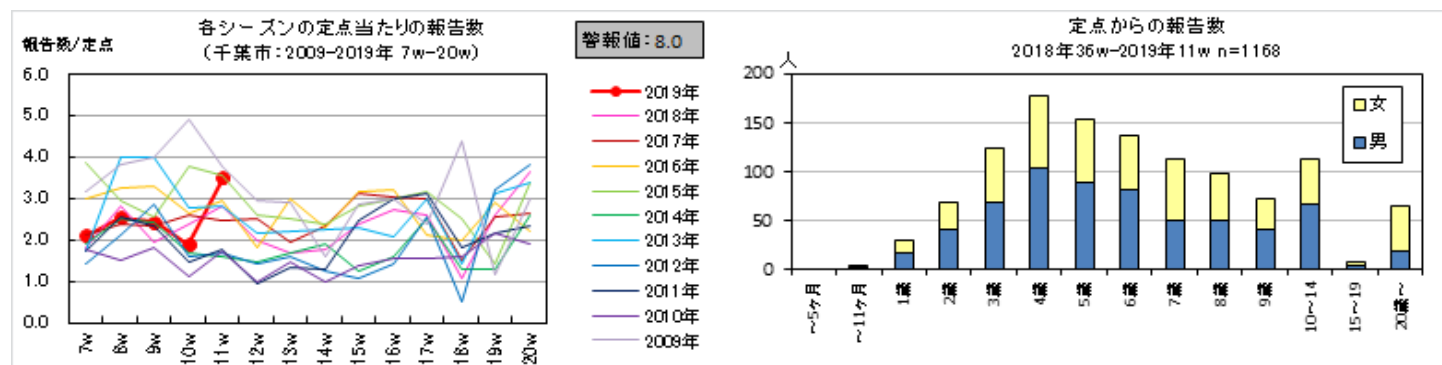
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、徳島県及び山口県、和歌山県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第11週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区及び美浜区(共に0.75/定点)で最多で、緑区では0~5か月、1歳及び2歳、美浜区では1歳未満及び3歳で発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第11週までの累積報告数は94件で、性別では男性が58.5%(55名)、女性が41.5%(39名)となっており、年齢階級別では1歳(28.7%:27名)、0~5か月(26.6%:25名)、6~11か月(24.5%:23名)の順で多くなっています。



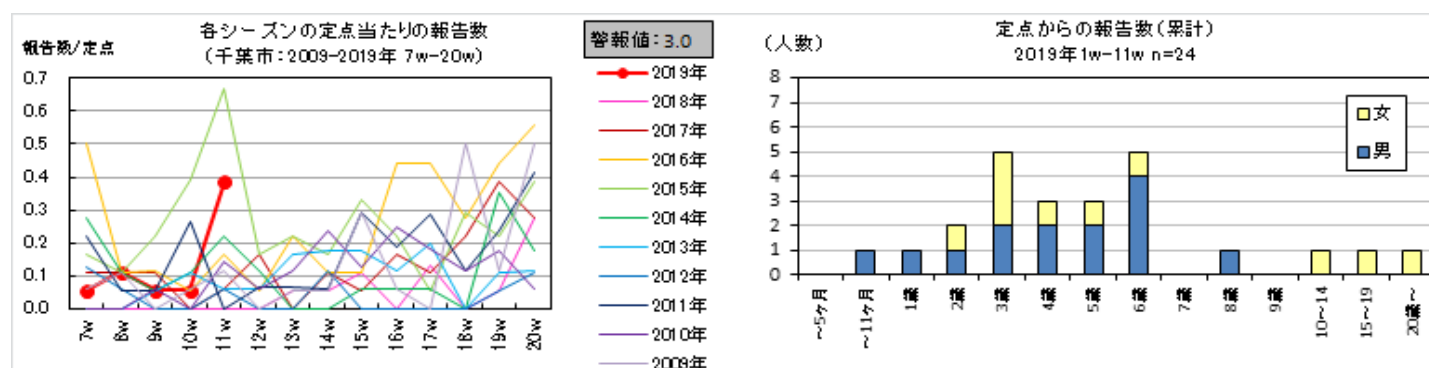
<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、岩手県、北海道、山形県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の第11週は前週より増加し3.50となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は、緑区(7.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第11週までの累積報告数は1168件で、性別では男性が54.5%(636名)、女性が45.5%(532名)となっており、年齢階級別では4歳(15.2%:177名)、5歳(13.1%:153名)、6歳(11.7%:137名)の順で多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第10週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、鹿児島県、大分県、長崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なくなっています。千葉市の第11週は前週より増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は、緑区(0.75/定点)で最多で、同区の4歳、6歳及び8歳で発生報告がありました。2019年第1週から第11週までの累積報告数は24件で、性別では男性が58.3%(14名)、女性が41.7%(10名)となっており、年齢階級別では3歳及び6歳(共に20.8%:5名)、4歳及び5歳(共に12.5%:3名)の順で多くなっています。



<風しん>

全国レベルの第10週の累積報告数は860件で、昨年の同時期と比べると140倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県の順で多く、関東地方で多く報告されています。千葉市では第11週に発生報告が3件あり、2019年の累積報告数は13件となりました。性別では男性が76.9%(10名)、女性が23.1%(3名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に38.5%:5名)、50歳代(15.4%:2名)の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の90%以上を占めています。

